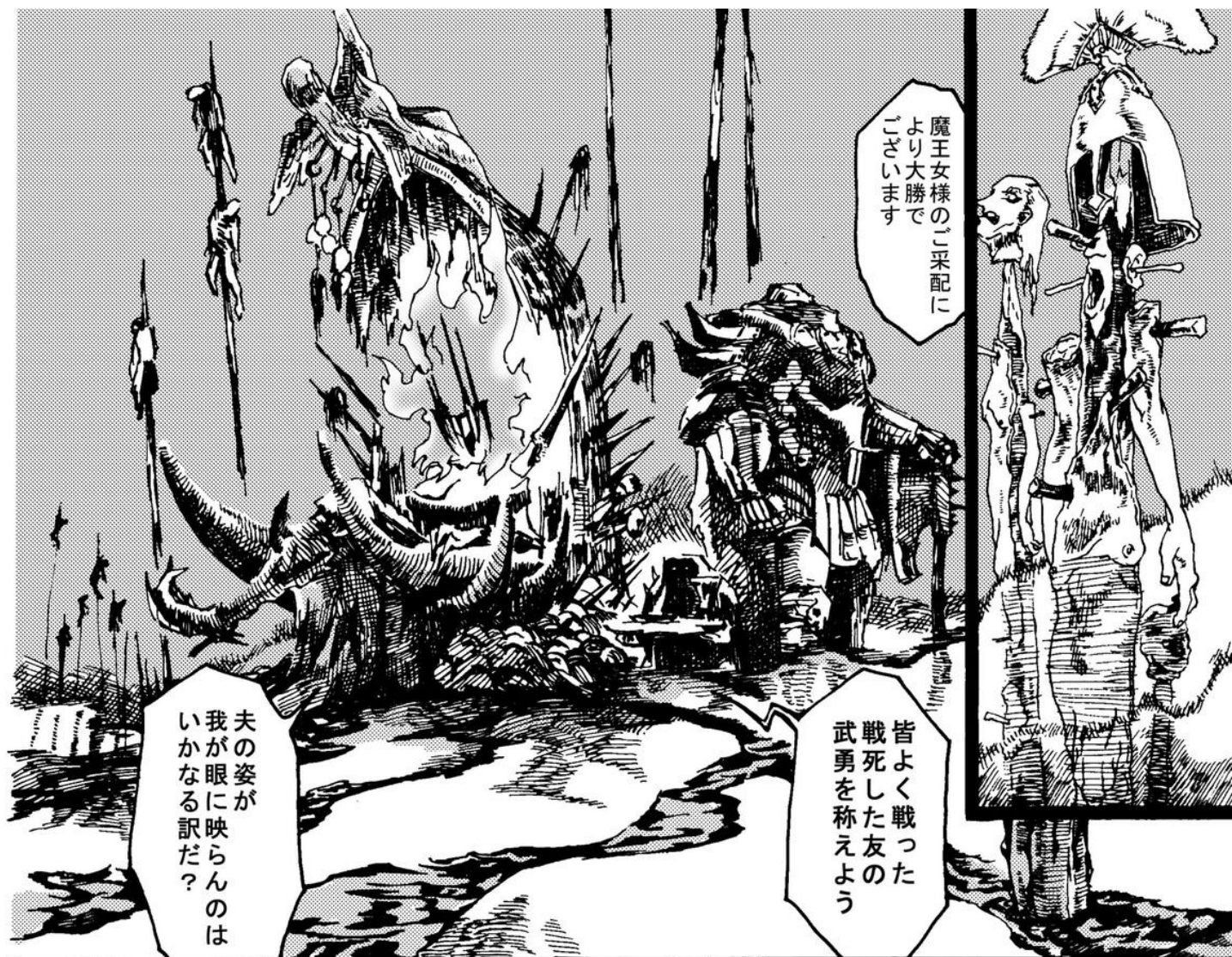




奥さまは
魔王女
暗黒大魔



魔王女様のご采配に
より大勝で
ございます

皆よく戦った
戦死した友の
武勇を称えよう

夫の姿が
我が眼に映らんのは
いかなる訳だ？



安心しな
い下の方から

なぜ
私から離れる？
両足切り落として
くれようか？

おめえさんの
近くにいと
血で汚れっ
からよ

くだらん理由だ
妻を心配させるな

どこにもいくな
私の宝物：

産毛が
燃えてら

妻の前で
妻以外を
考えてるな

頭の中覗く
つもりだな
これでもくらえ
夫を
疑うなよ

美人を前にした
男の頭なんざ
覗くもんじゃないぜ

何だ！このふざけた
妄想は！

あの世で見物
してな
てめえらの敵は
取ったるぜ

下劣！されど妄想！
嫁とはいえ許されるか？
されど
頭蓋の中の世界に
法はあるか？

スケベは
無罪か！！
悔しい！！

だからよ
この服の脱がし方
やめろ

なにが？

これは一体
どうしたことだ？

親衛隊、ただちに
警戒範囲を拡げよ！

しかし：

ただちに！
警戒を二声が
聞こえぬ範囲に
拡張します！

承認する



本当に必要な
行為なのか？

十分に
濡れているが

ハア

マ

ヒッ

貴様が好きなら
好きになる
努力をしよう

俺が好きなんだ
嫌いか？



なんだこの状態は！
ふにやふにやではないか！
妻であんな卑猥な
妄想をしておいて：なぜ！

清い心でエロいこと
考えるのは
男が最初に得る
特殊能力だぜ

なにが特殊能力だ！
新妻を前にして
なんと無用な能力か！
頭骨をえぐり
忘却させてくれようか

荒野を統べる王女
として命じる
男根を起立させよ！

頭の中
感情で埋め
つくしてやる

舌がしびれてきた
愛液が毒とは
人間が抱ける
女じゃねえわ

まだ余裕だな
もうちょい
かな

だ、男根を挿入せよ
迎え入れる準備は
できた

頼む：

もう限界だ
舌と指だけで
幾度も絶頂させ
られ

妻が、魔王女が
こんな恰好で
懇願しておるのだ

泣いてしまうぞ
女を泣かせる男は
荒野の法で極刑ぞ

はいよ

妻と王女を
泣かせた罪は
極刑を二度
執行してくるわ

あついや
言い過ぎた

最愛の者を
迎え入れる
この瞬間
例える言葉がない

何度聞いても
この言葉は
効く

いつも言うけどよ
そこまででかくねえし
おめえさんと
比べたら爪楊枝だろ

仕方あるまい
貴様の物しか
知らんのだ

貴様のは
私には
大き過ぎる

挿入は嬉しいが
ゆっくり頼む
まだ怖いのだ

やっぱ
人間の身じゃ
役不足だ
ちぎられち
まうわ

ギョッ

そのまゝ

防衛本能を
抑えるのに必死だ
体内の侵入者を
つい攻撃しようと
してしまう

嬉しいね、俺あ
妻を抱くたびに
九死に一生を
得るわけだ

夫の務めを
はたしましょうか

言うな
この身体は私より
強い雄に抱かれる
ようにできて
いるのだから

これで
夫を喜ばせる
ことができる

ビクビク





頭を覗かぬとも
分かるぞ
妻を抱きながら
妻の肉体の感触
でなく

高貴な女に
獣のように突き入れ
汚す想像で
快感を得ているな！

股を
閉じるなよ
もっと開いて



悲鳴を
この私が
小娘の
ような
悲鳴を

ついに夫に
知られてしまった
魔王女も
あなたの前では
女だと：

魔王女も
そんな声が
出せるんだな

ああ：夫は私が
ただの女になっても
陰茎をこんな
固くして
くれるだろうか：



なぜ貴様は
最初の濃いのを
外に出す！
いつもいつも！

魔王女が
俺なんかの
子種を必死に
集める光景が
見たいから

貴様には
世継ぎを残す
使命があることを
忘れるな！

そこに座れ
私が上になる

道化を玉座に
座らせるなよ！

王女と性行して
まだ道化のつもりか

よし！まだできるな
さすが我が夫
率丸に褒美をとらす



知ってるぞ
中の途中に
まだ残ってるだろう
渡してもらうぞ



夫以外なにも
いらぬ：
統べる者が抱いては
いかぬ感情が止まぬ

たまらんだらう
この魔王女が自分の
陰茎にまたがり腰を振る
光景は

殿方を可愛いと
言ったら怒る
だらうか：
顔が見れぬと
性行も
つまらんものだな

見んな！



なんて淫らな！
夫の陰茎：
ちんちんを射精に
導くために腰を
上下させて

もらい受けるぞ
貴様の子種！

男はやはり
好きなのだ
あまり乱暴に扱うなよ
貴様の子のための
ものだからな

俺の力じゃ
持ち上げるのが
精一杯だよ

射精しながら
動いてくれ
好き：これ好きだ：
流しこんで
くる：

大丈夫か？

すまん
このまま
しばらく：

夜も：月が出たら
また：その：
全て言わせるな：

はいはい
仰せのままに

きつと
この身体を
好いてくれる！

今日は鎧は
いらぬ
今日こそ全てを
見せたい

腹も膨れた、
身を清め香油も
塗った

私が男に
抱かれるために
準備する日が
くるとはな

寝て
おやすみ

それは許せないと
思います！

アソコすんごい
念入りに洗ってたら
旦那寝ちゃったの！

えー
何すか？



なんで：魔王女が
道化の俺に合わせた
女になろうと
してんだよ

ちんちん
ふにやふにや：

私のこと
嫌いになったか？
やはり人間の
女が恋しいか？



魔王女が
人間の男に
夜這いしやがって

：あなた：
せつかく
きれいにしたのに：
寝ちやうの？

：乱暴に
していいよ



決めた
人間の
女を全て
死体に
すれば：



不安なのだ：
思いだけでは：
言葉だけでは：



くだらねえ
こと考えんな
魔王女だろ



あまり声出すと
外に聞こえるぞ

聞かれても
よい！皆に伝えたい
愛されていると！

なにも身に着けず
男に身を任せている
この私が！

もっと触れてくれ
ちゃんと私も
女の肌だろう？
貴様の妻だ

これ好きだ
全身で夫を
感じる事ができる



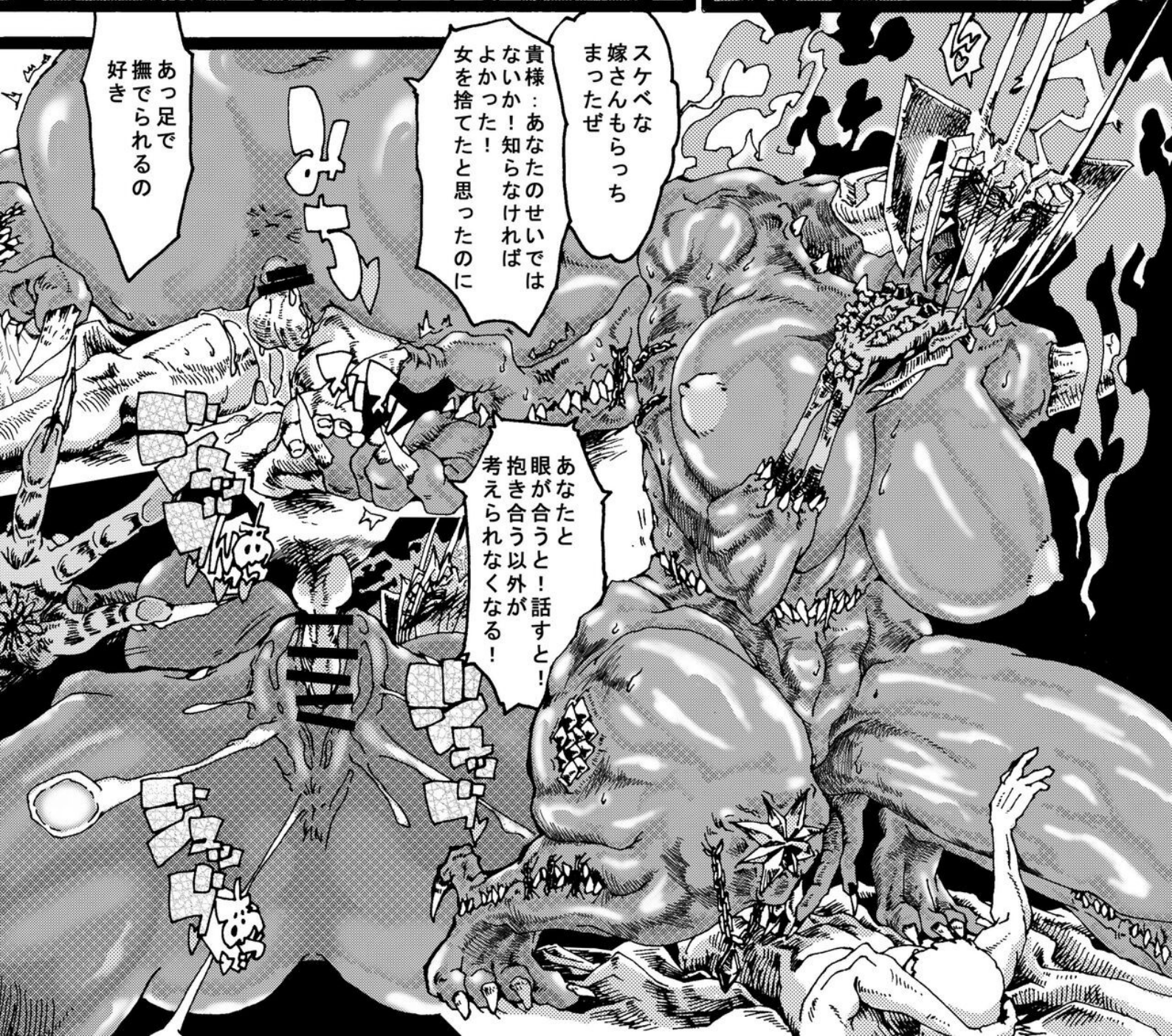


世継ぎを
残さねばならぬのに
もつと
抱かれないのだ！
ああ：なんと
情けない王女だ
使命より性行の快楽を
優先させるなど！

どうした？



待て！
あつこれは：
苦しくないか？



スケベな
嫁さんもらっち
まったぜ

貴様：あなたのせいでは
ないか！知らなければ
よかった！
女を捨てたと思ったのに

あなたと
眼が合うと！話すと！
抱き合う以外が
考えられなくなる！

あつ足で
撫でられるの
好き

抱き合うだけで
興奮と落ち着きが
交互に押し寄せる

ちくしょう
女の匂いさせ
やがって：

突いて！
動いて！男を！
感じさせて！

イってんな
イテテ：
締まるなあ

すまん：ああッ：
快樂で身体の
自由が効かん

大丈夫だから
俺がついてるからな
ゆっくりしよう





すぐにッ
済ますからな

気にするなッ
これもスケベな
夫をもった妻の
務め



寝床が散らかって
しまったな

寝巻は
ずいぶん
普通だな

ちよいと
立ってみ

普通と
言われてもな
困ってしまうが



全部出たな
これで襲われる
心配はないな

ほざけ
やい
もう一滴も
残って
ねえ

さすがに
寝るか

添い寝するぞ！
妻だからな！

魔王女の
夫となる男は
夢の中でさえ
不貞は許されん
のだ

知ってるぞ、男は
夢の中で浮気すると！

浮気してたら
どうしてくれようか
お尻つねって
やろう：あれっ？

なぜ寝室から
妻が逃げるのです？

魔族の嫁さん
もらえよ！

貴女のことを思う
だけで張ってしまい
つらいのだ、声を
聞くだけで果てそうになる

あなたへの
愛ゆえに側室を持たぬ身
私の愛を受け入れて
ほしい

いいから
女困めよ
魔王だろ！

壊れち
まうよ！



人間の身で
さぞかし
つらからうに

ったりめえだ
毎晩丸太みてえの
串刺しにされて：

あとで回復魔法を
施します
拷問だろ！

済んだなら
あっちいけよ

なんで
あたしなんだよ
一目ぼれです

添い寝しては
くれぬか？

ヤダ

うう：



これは
浮気：？

浮気じゃ
ない？
いやいや：

おわり